

<官房長交渉交渉報告>

全国の問題点を 村田官房長に訴える！

（水）に官房長交渉を実施し、組織の信頼回復、職場環境の改善と増員、若手職員の辞職問題、高齢職員の処遇、労使関係の強化などについて訴えました。当局側は村田官房長をはじめ十二名が出席し、2時間の交渉を行いました。

□冒頭あいさつ

冒頭、ユニオンに対しても、

委員長は冒頭、能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報などにふれ、これら の課題に対して、具体的な改善策を講じるよう求めました。その後、「組織の信頼回復と組織文化改革」「職場環境の改善と増員の必要性」「若手職員の育成と技術継承、辞職問題」「高齢職員の処遇と昇格基準の明確化」「労使関係の強化」について訴えまし た。

□組織の信頼回復

組織の信頼回復と組織

事が増えるが、健康に配慮しながら合理化を進め、勤務環境の整備をしていくき たい。と述べられました。

□職場環境改善

職場環境の改善と増員

の必要性に対して『人材の確保については、厳しい状況である。出張所の人員不足は、ローテーションを組むなど工夫してもらつて いる。当局としても仕事の重要性を査定官庁に伝え



No.391
2025年2月28日
【発行】
国土交通省管理職
ユニオン
【所在地】
東京都千代田区
霞ヶ関2-1-2 中央
合同庁舎2号館
TEL 03-3509-1138
【Email】
k-union@alpha.ocn.ne.jp
【ホームページ】
<http://www.k-unionnetwork/>



近藤委員長



村田官房長

ております。今年度は84名増え、経験者採用もして人材確保すると共に、シニアの人があ十分に活躍出来るようしていきたい。出張所の統廃合については、行政シリーズや社会の必要性を組織全体として考えていかなければならぬ。個別の事は言えないが、苦労はあると思うので、出来るだけ不正もあり、ウェブで局長に対しても、これまで省を上げて取り組んできた。昨年11月に幹部職員の見本として信頼を得られるようにしていきたい』との回答でした。

に改めて綱紀粛正等をお願いした。私自身も見本として信頼を得られるようにしていきたい』との回答でした。

に改めて綱紀粛正等をお願いした。私自身も見本として信頼を得られるようにしていきたい。テックフォースは自治体からの期待が高い。法制化も進めてくる』との回答でした。

に改めて綱紀粛正等をお願いした。私自身も見本として信頼を得られるようにしていきたい。テックフォースは自治体からの期待が高い。法制化も進めてくる』との回答でした。



交渉の状況（当局）

（表題よりつづく） □若手問題

若手職員の育成と技術継承、辞職問題に対しても『新陳代謝を進めるには安定的に若手を確保していくことが重要。研修等を充実していく。若手職員の離職について非常に強く問題意識を持つている。やりがいがある職場環境が必要。私自身も関東の地方機関を訪問して、意見交換

を実施し、古くなった庁舎や宿舎を案内してもらった。なんといっても最後は人であり、持続可能な組織としていくためには、人材確保と育成が必要不可欠なので、生き生きと働けるような職場環境に最大限努めます』との回答でした。

□高齢職員の待遇

高齢職員の待遇と昇格基準の明確化については

『定年の引き上げは職員が生活していくためにも重要な課題であると認識しており、職員が安心して職務に務められるような制度運用になるよう、きめ細かい対応に努める。給与水準についても、人事院に要望を行ってきたところで、引き続き適切に対応していく。管理職員の待遇について、級別定数の上位

を実施し、古くなつた庁舎や宿舎を案内してもらった。なんといっても最後は人であり、持続可能な組織としていくためには、人材確保と育成が必要不可欠なので、生き生きと働けるような職場環境に最大限努めます』との回答でした。

してきたことで、上位級の定数も増えており、これが今後とも全体の待遇が良くなるよう努力していく』との回答でした。

□労使関係

労使関係の強化に対しては『交渉については年に何回とか時期を約束出来るものではないが、まずは窓口で話し合ってほしい。昨年度まではコロナの影響での分になっていたが、『ご指摘やご要望を受けて2時間に拡大している。安定的な労使関係を定着させていくべきと考えておる。今後もお互いに努力していきたい。』との回答でした。

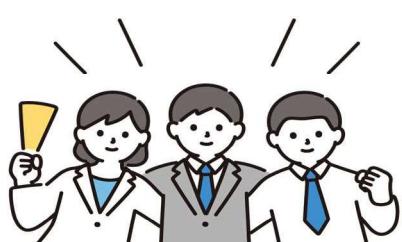
□その他

官房長の回答後、事務局長から、出張所の統廃合について改めて追及し

ました。それに對しては『出張所の役割は重要と認識しているが、社会情勢や一ーズの変化に對応する必要がある。具体的には、どこかで災害が起これば、そこにマンパワーを置かねばならない。限られた人員の中でどのように効率的に組織を運営していくのかという観点で統廃合を考えていかなければなりません。限られた人員の中を考慮していかなければ労が減るよう対応していきたい』との回答でした。



交渉の状況（奥が本部執行委員）



た。その後、持続可能な執行体制の確立ということで、国土交通省の年齢別構成人員の表を使い、『歪になつた年齢構成の問題点等を追及しました。その後、それぞれの支部から問題点等の追求を行い、その追求に対し調査官から回答がありました。最後に委員長から交渉の時間が少ない旨の指摘をして交渉を締めくくりました。